

3 週 三位一体・神

質問5. ひとりの神のほかに、多くの神々が存在しますか。

答え I ただひとりの神だけがおられます。それは生けるまことの神です。

質問6. その神には、いくつの位格がありますか。

答え I 神の位格には、父、子、聖霊、つまり、三位としておられます。この三位は、本質は同じで力と栄光において等しい、ひとりの神です。

解説

ひとりの神

神がおられるのが明白なのに、神の存在を信じない者たちは、神の厳重な審判を感じるでしょう（申 4:39、イザヤ 45:21）。神は、存在するすべての第一の原因であります。それで、すべての万物は神に依存されています。神は彼らに生命力を与え、存在するようにされています。従って、あらゆる偽りの神々を拝むのは深刻な罪です。一方で神は、偽りの神々を礼拝し、拝む者たちに惑わす力を送り込ませ審判なさいます（Ⅱテサロニケ 2:11）。

神はただひとりなので、正しい信仰も一つしかありません（エペソ 4:5）。従っ

てほかの宗教を通しては、救いは得られません。幻的な方法を通して偽り信仰を造り出すとか、偽り神を立てることは、神の審判を引き起こします。神はあらゆる偽りの神々と区別されるので、まことに恵みを悟った者は、偶像を捨て神に立ち返ります（Ⅰテサロニケ 1:9）。すべての命は、生けるまことの神の中にあり、神から来るので、その神を探し求めなければなりません（Ⅰテモテ 6:13, 15-16）

聖書は、神がただひとりだと確証し語っています（申 4:4、ガラテヤ 3:20、詩 86:10、Ⅰコリント 8:6）。つまり、ひとりの神以外、ほかの神々に仕えてはならないということです（申 32:39、イザヤ 43:10, 44:6-8, 45:5-6）。神がひとりと言うのは、ただ神だけが、すべての原因であり、すべての最終目的だということです。従って、神がおひとりだというのは、ただ神だけを喜ばせ、神だけに感謝すべきであることを意味します。

私たちは神の御心に合うように生きようと努力することで、神を喜ばせることができます。キリストは父の御心に従われました（ヨハネ 4:34）。私たちは、神が私たちに命じることを行うことで、神を喜ばせます。また、私たちの心を捧げることで、そして、おひとりなる神に祈ることで神を喜ばせます（ヨハネ 17:20-21）。祈りは礼拝の一部分だから、必ず捧げなければなりません。しかし、おひとりの方、神以外の物に仕えることは、みな偶像崇拝です。私たちがこの地において、偽りの神を信じないと言っても、金を最高と考え愛するなら、それも偶像崇拝です（Ⅱテモテ 3:4、エペソ 5:5）。また子供を最高に思うこと、自分の腹に仕えることも偶像崇拝です（ピリピ 3:19, Ⅰヨハネ 2:16）。

生けるまことの神

生きておられる神とは、神はあるという方、すべて自然的なものと、霊的なもの

の、そして永遠の命の原因となります (使徒 17:28、エペソ 2:2、コロサイ 3:3-4)。

まことなる神というのは、あらゆる偽りの神々とは区別することです。まことと言うのは、神は実際に存在し、真理のうちにおられ、想像や考えによって作られる方ではないということです。なぜなら偶像は、人間の想像や考えによって作られるもので、神はそのような偽りの神々とは区別されるからです。生きておられることと、まことというのは、互いに連結されていて、これは、神の属性なので分離することはないからです。生きておられる神だけが唯一まことの神であり、まことの神だけが生きておられる神です (I テサロニケ 1:9)。

三位一体

神はおひとりですが、ひとつの本質の中に区別され、三位としておられます。(I ヨハネ 5:7)。これは神聖な秘密として、人間の自然の光によって発見できるものではありません。本質において三位はひとつです。つまり、三位は神的性質が同じです。ですから、三位において程度があるものではありません。三位は、総合間で結合しています。三位において、知恵と聖と力に差があるではありません。

第一の位格は、「御父」と呼び、第二の位格は「御子」、第三の位格は「聖霊」と呼びます。三位一体・教理は、私たちの救いを理解させるために必須的な知識です。御父が選び、選ばれた民のために御子が贖いの働きを行われます。そして聖霊は、贖いの恵みが、実際に選ばれた者たちに起こるように適用させます。従って、三位一体・教理を断ることは、救いの道を断ることと同じです。

位格がなさる働きの区別

すべての完全さは、御父に起因することと見ます (ヨハネ 5:26)。すべてのこ

とを計画し、御心を持っておられるのは、御父に帰します（ヨハネ 12:27-28）。一方、永遠の贖いを用意させ（ヘブル 9:12）、罪を赦し（マルコ 2:5）、終わりの日に墓の中にいる者をよみがえらせ（ヨハネ 5:28-29）、世を審判なさること（ロマ 14:10）については、御子の働きに帰します。三位の中で、聖霊の働きとして区別されるのは、贖いの恵みを、有効に適用させる働きです（エペソ 1:13）。

このように、位格がなさる働きを区別して、三位一体に対する知識が必要な理由は、神の救いの御業を理解するためにです。神の選ばれた民に、どのようにして救いが起こされ、実際に、救いが生じるのかを知るためです。勿論、このことを知識的に知ることが救いではありません。知識的に知ることと共に、実際に救いが生じるようにさせる、聖霊の有効な御業がなければなりません。それゆえ、三位一体・教理は、抽象的で、哲学的なことではなく、霊的なことです。

さらに三位一体・教理は、信者の生活と直接的な関連を持ちます。信者が礼拝する時、御子にあつて、聖霊を通して、御父に礼拝することで、祈る時にも、御子の名によって、聖霊の助けの中で、御父に求めるのです（エペソ 2:17, 5:20）。

三位一体・教理は、聖書を通してただ発見できることで、三位の神が、ご自身の民を、どのように救うのかを見せてくださり、信者の信仰の規範が、この教えに根拠していることを教えてくれます。